

令和6年8月20日

浜田市議会議長 笹 田 卓 様

議員名 芦谷英夫

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

- 1、視 察 先 大田市（男女共同参画センター あすてらす）

2、視 察 事 項 しまね地域・自治 夏の学校

3、視察の目的（市政との関連など） 邑南町の地区計画づくり、事業の実施、地域運営組織づくりなど、地域自治力の向上の取り組みについて先進例として調査研究

4、期 日 令和6年8月18日（日）

5、経 費

参加費	2,000円
交通費	4,380円（JR往復）
駐車料	400円
計	6,780円

6、視察のポイント・議員活動や市政への反映など

詳細は視察内容（所感）に譲るが、視察した事項について、議会活動、政治活動の参考とする

7、視 察 内 容 別紙のとおり



- 1 日 時 令和6年8月18日（日）10時～12時
2 場 所 大田市（男女共同参画センター あすてらす）
3 演 題 「島根県邑南町における自治力向上の取り組み～中間支援の立場より～」
4 概 要 小さな拠点ネットワーク研究所 ディレクター 白石絢也

- ① 小さな拠点ネットワーク研究所は、地域づくりや小さな拠点の形成に取り組む地縁型組織、地域運営組織などを支援する中間支援組織として、平成28年5月に設立された一般社団法人で益田営業所があり、吉賀町・邑南町の両町、矢上高校魅力化など中間支援組織として地域づくりに携わっている。
- ② 邑南町は羽須美村、瑞穂町、石見町の3町村が合併し3町村を3つの地域とし、羽須美村の阿須那、瑞穂町の市木、石見町の矢上など12の公民館エリアを地区とし、地区の下に39の自治会がある。
- ③ 邑南町の政策3つの柱「日本一の子育て村」として、高校卒業まで子ども医療費無料化、子育て支援手当、不妊治療費助成、「A級グルメ」としてここでしか味わえない食や体験、耕すシェフ制度、「地区別戦略」として地域住民組織などが主体となって取り組む活動支援、などを行ってきている。
- ④ 地区別戦略発展事業は12地区を対象とし、平成27年度から第1期ちくせん、令和2年度～6年度第2期ちくせんとして、計画策定から事業実施へつなげている。令和6年度から新たに地域運営組織設立事業がスタートし3地区で実施し、3年間で1地区年50万円を補助し7年度以降他9地区へ広げるとし、これは地域組織の法人化・組織強化の動きにつながっている。
- ⑤ 令和3年邑南町と島根県立大学とで包括連携協定を締結し、「ちくせん」などで連携活動をしているおり、田中輝美教授の演習科目「地域プロジェクト研究」として2年生、3年生各10人が学び交流し、4年生3人は卒業論文について邑南町の取り組みを題材としている。

5 所 感

- ⑥ A級グルメと浜田市の「はまごち」を結び、食を通じた観光・文化交流協定を結んでいるが、A級グルメについて、邑南町議会の食の学校特別調査委員会で調査し、事業廃止と事後処理について「相応の対応」と結論を出している。
- ⑦ これについて白石氏の話では「A級グルメは地域に浸透していなかった、町民の理解が進んでいなかった」と評価されており、鳴り物入りプロジェクトの進行管理、議会の評価検証が重要である。また浜田市の「はまごち」もいまは進んでいない。
- ⑧ 浜田市は協働のまちづくりを市政の大きな柱として、地域組織づくり、計画づくり、地域での事業を進めているが、全市一体となった体制づくり、事業推進となっておらず、旧市町村ごと各地域ごとばらばらにされているのが実態である。
- ⑨ 邑南町は計画づくり、事業の実施、地域運営組織づくりと、体系的に計画的に進めており、邑南町の地区別戦略、地域運営組織設立などの事例は参考とすべきである。浜田市と県立大学との包括連携事業による、活動の実態も評価検証する必要がある。
- ⑩ 協働のまちづくり推進特別委員会は、地区まちづくり推進委員会のあり方、町内会等のあり方、まちづくりセンターのあり方、まちづくりコーディネーターの継続及び強化、地域協議会のあり方、人材の発掘及び育成、全市民で協働のまちづくりを進めること、の7項目を提言したままとなっており、議会としての対応力が問われている。